

Bolero 45

Kay Ishiguro

30

おかげさまで30年

SIDE 1

1. ランダム 4:46

作詩:三浦徳子・作曲:辻畑鉄也・編曲:森 英治

2. フランス式の別れ方 4:06

作詩:森 雪之丞・作曲:辻畑鉄也・編曲:森 英治

3. 断崖 4:26

作詩:山崎ハコ・作/編曲:天野正道

4. MELISSA 3:40

作詩:Mieko・作曲:Malcolm McNeil・編曲:森 英治

SIDE 2

1. 冷蔵庫とカモメ 3:49

作詩:三浦徳子・作/編曲:天野正道

2. マリアの真実 3:53

作詩:山崎ハコ・作/編曲:天野正道

3. DECK CHAIRのベジミズム 4:31

作詩:藤田千章・作曲:辻畑鉄也・編曲:森 英治

4. 薬指のため息 4:03

作詩:三浦徳子・作/編曲:天野正道

DAMP
STEREO DOR-0156

Bolero 45

Kay Ishiguro



おかげさまで30年

創立30周年記念盤

ごあいさつ

DAM会員の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。弊社はお陰を持ちまして、本年11月、創立30周年を迎えることとなりました。30年間の長きに亘る皆様のご愛顧に、社員一同、心より御礼申し上げます。ここにお届け致しますDAMオリジナル・ディスクは創立30周年の感謝を込めて制作致しました記念盤でございます。既に、アナログ・ディスク、コンパクト・ディスクを合わせ、150タイトルを超えるソフトを制作し、毎回、会員の皆様を始め、業界各方面でも、そのクオリティの高さで注目を集めています。この創立30周年記念盤は、いわばこうしたソフトの集大成であり、さらに皆様にお喜びいただけるソフト作りの新たな一歩となるものであります。この一枚をご家族の皆様で心行くまでお楽しみ戴ければ幸いです。

さて、弊社は創業以来、特にオーディオ、ビジュアル分野に積極的に取り組み、単にAV機器の販売に止まらず、AVを豊かにお楽しみいただくための様々な催しをご提供して参りました。有名アーティストを招いての生録音会、コンサートへのご招待、数々のAVセミナーなど、その時々の話題性や、新技術を選早く検証する進取の気風に富んだ企画により、皆様のご支持を得て回を重ねております。弊社はこれからも、AVのハードウェアとソフトウェアは不可分のものとの考えで、諸政策を実施してまいる所存です。その一環として昨秋よりAVソフト宅配システム「そふとっきゅう」を始めました。創立30周年を機に、今後も今まで以上に時代を尖鋭にとらえ、新たな試み、新たな企画により、皆様のAVライフにご奉仕して参ります。変わらぬご支援、お引立てよろしく御礼申し上げます。

第一家庭電器株式会社 代表取締役社長・星野孝

♥プロフィール♥

- ◆昭和33年3月30日生まれ。神奈川県茅ヶ崎市出身。
- ◆昭和49年秋、北鎌倉女子高校在学中、女性3人で「ビバブ」というグループを結成。
- ◆昭和51年3月、高校卒業後、ニューサウンドに加入。シンガー・ソング・ライターとして活動を始める。
- ◆昭和52年3月5日、RCAから「恋人時間」でレコード・デビュー。
- ◆昭和55年3月、北村英治、アート・ベッパーらをバックにしたアルバム「アドリブ」を発表。各誌で絶賛。
- ◆昭和62年6月、TBS「東京音楽祭」に出演。
- ◆昭和62年9月、ベニーカーターオールスターズと共演。

制作にあたって

「マニアを追い越せ！大作戦」は会員の皆様の御支援のお陰で、第29回目を迎えることができました。変わらぬ御愛顧に心より御礼申し上げます。

さて、今回のDAM45は、大人のムードを楽しませてくれるジャズ・シンガー「石黒ケイ」さんの登場です。石黒ケイさんは、'77年にRCAレコードよりニューミュージックのシンガー・ソング・ライターとしてデビューし、その後ビクター音楽産業、ディスコ・メイト、そして日本フォノグラムを経て'88年に東芝EMIに移籍。と、キャリア十分なシンガーです。この春にリリースしたアルバム「BOLERO」は、2年半振り、13枚目のアルバムとなります。

石黒ケイさんは、長い音楽活動の中で、一貫してジャズやブルースにこだわり続けて今日に至っていますが、今回の「BOLERO」は、余裕をもって自然に歌える自分の世界を、ヨーロッパサウンドのアレンジにのせて、情感いっぱい歌ったムード溢れるアルバムに仕上げられています。

今回のDAM45は、この「BOLERO」より8曲を選び「石黒ケイBOLERO45」として制作いたしました。制作に際しましては、カッティングヘッドにVIP45「西島三重子ライブ」でも使用し、アナログへの新しい挑戦としてご好評をいただきました。ヴァンデンハル改造ヘッドを使用し、45回転ハイレベルカッティングで仕上げました。

また、カッティングでは、イコライザーを使用し、一曲ごとにイコライジングしたラッカー盤と、イコライザーを使用せずにカッティングしたラッカー盤の2種を何度も比較試聴した結果、ヴォーカルの広がりや透明感、更にサウンド全体の雰囲気の良い良さを重視し、今回もイコライザーを使用しないほうを採用しました。

録音は三菱のデジタルマルチレコーダーを使用したデジタル録音ですが、カッティングは $\frac{1}{2}$ ・76cmアナログマスターを使用しましたのでヴォーカルの質感や滑らかさなど、雰囲気もよく、デジタル、デジタルした感じのないもので、アナログ盤を通して、いっそう自然で聴きやすい内容に仕上がったのではないかと思います。

石黒ケイさんのヴォーカルを楽しみながら、オーディオ・チェックに、また、愛聴盤として末長くお聴きいただければ幸いです。

最後に、当社創立30周年記念盤の制作にあたり、東芝EMIのスタッフの方々の方々の絶大なる御協力に深く感謝申し上げます。

DAM推進委員会

前回の西島三重子に続いてDAMオリジナル・ディスクに登場したのは、もうベテランと呼ぶべき女性ボーカリスト、石黒ケイのアルバムだ。本作は石黒ケイの東芝EMI移籍第一弾『ボレロ』からピックアップしたもので、いつも通りの高音質が楽しめる。

石黒ケイは以前から大人の歌を歌っていたが本作でも彼女の個性を十分に発揮し一曲一曲をしつとりと歌い上げているという印象を受ける。本シリーズは常に45回転、高音質素材を使っており一般に市販されているディスクよりも格段にクオリティが高まっている。レンジが拡大しSN比が向上するのはもちろん、ディテールの微妙な表情まで正確かつ鮮明に再現できるので音楽の聴きどころがグッと増してくる。本作でも時代の先端を行く技術を惜しみなく投入しウルトラ・ハイグレードといっても良い音質を実現しており熱烈なアナログ・ディスク・ファナティックにとって最高の贈り物なのではないかと思う。

ランダム

オープニングはタイトル通り気ままな恋を歌うナンバーでラテンのビートに乗った軽妙なタッチのボーカルが聴ける。左右チャンネルに振り分けてパーカッションを定位させているが、その粒立ちの良さとスムーズな立ち上がりはDAMオリジナル・ディスクならではの。またサビの部分で聴ける男性コーラスのエフェクトの効果もさらに生きてくるし広がりや浮遊感も曲の雰囲気を高めているといえるだろう。多用されているパーカッション群で定位感、先に触れた男性コーラスなどで音場感のチェックができるし、明快なリズムを刻むベースで低域のダンピングの良し悪しが分かる。

フランス式の別れ方

小粋な別れを願う悲しくて微妙な女心を歌った曲でゆったりとしたエキセントリックなワルツのリズムが印象的だ。幻想的なイントロに続いてリズム・インしてメロディが流れ

出すがバックの低音のリズムの重量感、厚みが圧倒的な迫力で迫ってくる。針圧をはじめとするプレーヤー系の調整が充分でないとなってしまうのではないかと思う。また、最内周の4曲目などではカッティングしきれなかったらと思う。低域の充実したシステムで少し大きめの音量で聴くと風圧を感じるほどだ。この辺りが変に重苦しくなったりボーカルの細かな表情やパーカッションがマスクされるようだと低域に問題がある。後方に漂うように入っているシンセサイザーやパーカッションの鮮明さも分解能のチェックに役立つくれる。最後のフェード・アウトもシステム全体のSN比が判断できる。

断崖

行きずりの恋を歌う退廃的な雰囲気を持つ歌。アルバムタイトル通りボレロのリズムが使われている。コントラバスのやや暗く深みのあるサウンドに乗る石黒ケイの透明感のあるボーカルが印象的だ。ラヴェルの『ボレロ』と同じように長いクレッシェンドにより曲を盛り上げているが、これを正確に再現するためにはカートリッジをはじめトータルのリアリティが高なくてはならない。特にスピーカーにおいては小音量から大音量時までのリアリティが高い必要がある。また一般のディスクやカセットなどDレンジを充分に確保できないソースにとっても厳しい曲といえるだろう。後半ではアップテンポに変りドラマチックに歌い上げるがリズムの起伏や彼女の澄んだ声が悲し気な雰囲気を醸し出している。

MELISSA

マルコム・マクニールの『ソング・ダンス』に収められていたナンバーで邦題は『風の下のメリサ』とつけられていた。そのタイトルにふさわしく爽やかさを感じさせる軽快なリズムに乗りサラリと大人の女の恋心を歌っている。ギターのアルペジオやボンゴなどによるリズムックなイントロで始まるが、ミュー

トをかけたギターのアルペジオとボンゴの質感をリアルに鳴らし分けるかがポイント。また、トライアングルやクラベスが左右に広げて定位されているが、ここで音場の広がりや充分に再現されるかチェックすると良いだろう。パーカッションが多用されているので、その一つ一つがクリアに出てくれば分解能に問題はないといえる。またボーカルのプレスやハスキーさが強調されるようだと中高域寄りのエネルギー・バランスになっていることが考えられる。

冷蔵庫とカモメ

突然の愛の終りを歌った曲で、タイトルも風変わりだがイントロの重量感のある低音のビートが強烈な印象を与える。このエネルギーッシュでマッシブな低音のビートは全編通して聴かれるのだが『フランス式の別れ方』と同様に最内周のトラックでは難しい。この曲にも左右に振り分けてパーカッションが効果的に使われているが強烈な低音にマスクされいかどうかポイントになるだろう。またストリングスも後方に流れているが、ここで音場感が正確に再現されないと平面的になってしまう。ボーカルは気づかいな雰囲気を漂わさせているが音像に曖昧さはないので、これが引込んでしまうようなら中域の充実感が不足しているということだ。また間奏のギター・ソロのメリハリの効いたディストーション・サウンドのリアルさも聴きどころといえるだろう。この曲の聴きどころを正確に再現するためにはシステムのDレンジ、Fレンジとも充分に確保されている必要がある。

マリアの真実

ミディアムテンポのゆったりとしたリズムに導かれフリーゲル・ホルンの短いイントロにはじまる恋人との別れを歌った曲でサラリと歌っているが、じっくり聴くと悲しい女の情感が伝わってくる。ハイハット・シンバルの軽やかなビートが曲の雰囲気に良くマッチしているが余韻のキメ細かさや軽やかさが

再現されれば中高域がフラットなレスポンスということだ。ベースの持続音とキックドラムの短いビートを実在的に差別化できれば低域の質感やダンピングに問題がないということだ。サビの部分ではボーカルにディレイがかけられオーバーラップしているがその余韻が最後まで鮮明かどうかで分解能の判断ができる。

DECK CHAIRのベジミズム

過去の恋の思い出を歌ったナンバーで軽快なビートが心地良い。オルガンのような音色のシンセサイザーやカスタネットが効果的で軽妙な雰囲気を生み出している。また途中に入るアコースティック・ギターのアルペジオではスチール弦のピュアな響きが得られ、アルトサクソ・ソロの鮮度の高い鳴りの良いサウンドは高音質ディスクならではのといえるだろう。ハイハット・シンバルの軽さやストリングスのナチュラルで滑らかな響きもカッティング時の色付けのなさを物語っている。低音のビートは弾力がありマッサも適度に感じられるが、タイトすぎるようだと少し高域寄りのバランスということだ。またボーカルのプレスがきれいに出来れば色付けなく分解能も確保されていることになる。

薬指のため息

チョーキングを使ったギターのアプローチが印象的で、ここでは愛の清算をしつとりと歌い上げている。彼女の透明で哀感のある歌声やエコーなどが濁りなく再生されるかどうかで歪のチェックができる。イントロやサビで効果的に使われているドラムスのアクセントは立ち上がりの良し悪しが判断できる。Lチャンネルに微細な音量で入っているトライアングルのロングトーンやミュートなどは分解能の高さと細かな表現力を要求されるところだが、本ディスクではそうした細部の表現力は一般のディスクより格段に高まっている。

(小林 貢)

DAMハイクオリティレコードについて

音楽パッケージもこのところ DAT をはじめ CD-V、CD-I 等、次々に新商品の開発が具現化し、ますます多品種化の傾向を呈しており、音楽プログラムに対するアプローチの仕方も更に多様化、より個性化すると思えます。

今やアナログディスクは、完全にコンパクトディスクにその主流の座を奪われ、100年以上続いたアナログディスクと短期間のうちに世代交替したコンパクトディスクの優位性は、まさしく脅威的なものを感じます。しかし、話題に乏しいアナログディスクとはいえ、アナログならではの魅力と常に音の限界にチャレンジしても余りある可能性を秘めているディスクレコードは、尚一層興味と期待が大きいものがあります。DAMレコードは、一作毎に、マスタリングからメッキ、プレスに至る製盤の最新技術の導入を図り、常に限界とその可能性を求めて来た経過がありますが、VIP『ロマンス/徳永二男』でのガラス原盤を素材としたラッカーマスターを初めて採用した超重量200gレコードは、真に現状のアナログディスクの市場性とその背景を考えれば、一つの完成領域に到達したディスクであったと確信しております。今回の DAMレコードの特長は、その最高水準と確信する超重量200gレコード採用で得た製造ノウハウと、更にコンパクトディスクやビデオディスクの周辺技術を導入することはもちろんのこと、特に新しい測定評価技術を採用することで従来とは別な観点での理論解析により音質改善の対策を進めて来た点にあります。一部の工程では、生産性を度外視した相当なリスクを覚悟で、手造り的な製造方法をとったり、まさしく音質重点主義で進めたアナログディスク技術の総力でチャレンジした私共の制作ポリシーをきつと理解して頂けるものと思えます。

それでは今回の特徴を紹介いたします。

前回に引き続きカッターヘッドはオランダのカートリッジ研究者であるヴァンデンハル (Vandenhul) 氏に依頼して、ノイマン社製カッターヘッド (SX-74) のドライブコイル、フィードバックコイルを、MC-OFC (Mono Crystal-Oxygen Free Copper) 素材で手巻きした改造ヘッドを採用しました。ケーブル、ワイヤー素材による音質の違いについては、各種各様に論じられ興味ある点ですが、アナログディスクに残された貴重な試みとしてトライしてみました。

ディスクレコードの平面、平滑性は、音質へ影響する重要なファクターでもあり、総合的な意味で音溝波形の成形精度に集約されますが、今回の高品質化のポイントはこの点にあります。

アナログディスクの徹底した性能分析より、ビデオディスク成形の周辺技術を応用したプレス金型を新しく開発することからスタートした超重量200gレコードの製造技術とその設備を利用し、今回の150g重量レコード用プレス金型の精度や鏡面性を対処することで、ディスク面のストレス (歪) を最小限に押さえ込み、忠実な音溝波形を成形しています。更にメッキ工程に於いてもコンパクトディスクの製造ノウハウと設備を採用して、クリーンルーム処理を行い、従来に無い超

精密な電解メッキにより、ラッカー音盤の音溝を忠実に転写し、雑音の少ないS/N比の良い原盤を作成しました。

今回は特にディスクの面精度を改善する為に、スタンパー作成は高密度な電解メッキ方法と研磨仕上げとによって、優れた平滑性が得られています。

これらの改善により、真円性の大幅な向上とワウフラッターの影響を極力減少させることで、低周波数帯域による変調が少なく、全体の分解能が改善され、楽器の音程がより安定感のある響きと、強奏部での解像力も一枚ペールを剝したような鮮明さは、アナログディスクの魅力ともいえましょう。又、音像の実存感もまさしくマスターテープのもつオリジナルサウンドの世界だと思えます。

御存知のように、ステレオの音溝は、水平振幅は左右信号の和 (L+R)、上下振幅は、左右信号の差 (L-R) として録音カッティングされておりますが、このハイクオリティレコードは、通常のレコードより+2dB程ハイレベルでカッティングされ、音溝幅の変化は、 $20\mu\text{m}\sim 300\mu\text{m}$ (L-R) 程に達する位、高精度化しております。

例えば複雑な音溝になればなる程、その再生時に於いてはカートリッジの振動エネルギーが逆にレコード盤を烈振させ、レコードの固有共振によってその振動がカートリッジヘリアクションされ、クロストーク、セパレーション、歪等さまざまな音質劣化の要因になると考えられます。

共振はマスとコンプライアンスの積で表わされますから、レコードの固有共振はレコード重量を重くし、マス成分をコントロールすることで音質の影響の少ない帯域へ共振周波数を下げ、低域特性の改善を図っています。

レコード形状も再生条件を考慮し、今までのフラットレコード以上に精度の高いフラットプロフィールを採用致しました。このフラットネスの良さは、ターンテーブル・マットとの密着性を大幅に改善し、再生時に起こり得るレコードの共振がマットを介して逆にレコードへ、フィードバックされるこのリアクションを緩和させる効果があります。

この様な高密度レコードでは、特に安定度の高い盤質が必要とされますが、従来から高品質用として開発した材料をベースに、新タイプの配合剤、熱安定効果の高い安定剤の組合わせにより、一層ゲル化性の改善を図り、更に新タイプ帯電防止剤による静電除去効果とあいまってきわめて安定度の高いS/N比の良いレコードを提供することが出来ました。

以上のように今回の DAMレコードは、現状の最高水準の製盤プロセスを経て制作されております。

デジタルサウンドとの出会いも最近は多くなって来ていますが、是非、このアナログディスクのもつサウンドの魅力を十分に感じ取って頂ければ幸いに思います。

(開発技術部 原 清介)

30センチ45回転レコードの取扱いについて

このレコードは、通常の33 $\frac{1}{3}$ 回転レコードと変わった点はありませんが、念のため次のことに御注意下さい。

- (1)オートプレーヤー、オートチェンジャーでも使用できますが、ある特殊なものでは完全な自動演奏が出来ないこともあります。このような場合、手動方式に切替えてお取扱い下さい。
- (2)回転が速くなるために、レコードの反りの影響が33 $\frac{1}{3}$ 回転にくらべて出やすくなります。レコードの保管、取扱いには充分注意をして下さい。
- (3)再生する部屋の温度が低いと、カートリッジが正しく作動しないことがありますのであらかじめ室温を15°C~20°C位に保って下さい。
- (4)再生時には特にアームのラテラル、インサイドフォースのバランス、及び再生針の磨耗状態、針圧 (メーカー指定の重い方にセット) には充分気を付けて下さい。
- (5)このレコードは、ハイクオリティのオーディオ・チェック・レコードのため、カートリッジによってはトレースがむずかしい場合があります。

レコード材質——プロユース材料使用

カッティング・データ

Cutting Date : 9 May 1988
Toshiba-EMI STUDIO TERRA
CUTTING ROOM
Tape Recorder : STUDER A-80 Mk II (1/2Inch 76cm/sec. 2ch)
Drive Amplifier : Neumann SAL-74B
Cutting Lathe : // VMS-80
Diamond Cutting Stylus
Cutting Head : Neumann SX-74
(ヴァンデンハル改造バージョン)
Non Limiter
Non Equalizer

スタッフ

arranged by : Hideharu Mori* (Side 1-1・2・4, Side 2-3)
Masamichi Amano (Side 1-3, Side 2-1・2・4)
chorus : Tetsuya Tsujihata* (Side 1-1)
*as "Picasso"
Picasso by the courtesy of KITTY RECORDS
engineer : Seiji Okumura
Teruo Murakami
assistant engineer : Naoki Yamada
recording studio : STUDIO SKY
photography : Kohki Nishida
デザイン : 株式会社グラバール企画
制作協力 : 株式会社サンデュエット
企画・制作 : 第一家庭電器株式会社 **DAMP**
製造 : 東芝EMI株式会社

Bolero 45

Kay Ishiguro



SIDE 1

1. ランダム 4'46"

作詩:三浦徳子・作曲:辻畑鉄也・編曲:森 英治

2. フランス式の別れ方 4'06"

作詩:森 雪之丞・作曲:辻畑鉄也・編曲:森 英治

3. 断崖 4'26"

作詩:山崎ハコ・作/編曲:天野正道

4. MELISSA 3'40"

作詩:Mieko・作曲:Malcolm McNeil・編曲:森 英治

SIDE 2

1. 冷蔵庫とカモメ 3'49"

作詩:三浦徳子・作/編曲:天野正道

2. マリアの真実 3'53"

作詩:山崎ハコ・作/編曲:天野正道

3. DECK CHAIRのペシミズム 4'31"

作詩:藤田千章・作曲:辻畑鉄也・編曲:森 英治

4. 薬指のため息 4'03"

作詩:三浦徳子・作/編曲:天野正道

